特集 はこまち対談

Part 34

「みんなで、住みよいまちをつくりたい」

今回は、町内会活動について、最近とても元気な陣川あさひ町会のお二人にお聞きしました。

佐藤　敬一さん

◆プロフィール
1954年　虻田群豊浦町生まれ
2010年　デザイン会社　Sビジョン設立

函館市PTA連合会顧問
2012年より陣川あさひ町会総務部長
これまで、はこだての教育を考える会会長・北海道PTA連合会副会長などを務める。

山田　圭寿さん

◆プロフィール
2012年　陣川あさひ町会総務副部長
2014年　陣川あさひ町会計部長

本職は、農業。地産地消を目指し、地元陣川地区で直売所、函館市内で野菜の宅配などを行っている

【聞き手】地域交流まちづくりセンター　センター長　丸藤　競

丸藤：町会活動が難しくなっているという声をよく聞くなか、陣川あさひ町会さんは最近とても元気ですね。

山田：市の統計などを見ても、人口は減っていません。むしろ微増しています。若い方が多く住み、子どもの数もけっこういます。

佐藤：私が住み始めたのは17年くらい前ですが、地価が安く若い人が移ってきやすい土地柄でした。

山田：二戸建てでも一千万しなくて手に入れられる物件もあるので、若い人でも陣川なら家を持つことができますよ（笑）

佐藤：高台なので見晴らしはいいし、以前は温泉もありましたし。

丸藤：生活はどうですか？

佐藤：コンビニがありますし、バスも走らせていただくことができ便利になりました。

丸藤：町会の活動が素晴らしいですね。

山田：なんとかしようという思いが強い町会長さんが続いたのだと思います。それと、お祭りを見ていると、みんなでやろうという住民のノリもいいです。景品が豪華だというのもありますが、来場者が増えていて町会の評判につながっていると思います。

佐藤：町会へ対する思いや期待がけっこうあるのではないかなと感じます。もっと自分たちも努力していきたいという気持ちが、そういうところにつながっているのではないかと思います。

丸藤：新しく住み始めた方も、町会活動に参加してくれるんですね。

佐藤：若い人が役員になって活動することによって若い人の感覚でイベントを企画し、活性化して面白いことができるようになりました。。

山田：そのきっかけが、前の町会長が「これからまちをつくっていくのは、子どもたちだ」という考えのもと、子どもの行事を手厚くしていったんです。その結果、4年くらい前とくらべ、子どもの行事の参加者は3倍以上になっています。一緒に来てくれる親御さんの中で手伝ってくれる方も増え、とてもありがたいです。

佐藤：2月に行ったウインターフェスティバルを見ても、いい流れができているなと感じます。熱い思いが伝わっているのでしょうね。

山田：周りの方などから「子どもたちが羨ましいよね」と言われたり、前に参加した子どもから街中で声を掛けられたりすると、今の活動は間違ってはいないなと思います。

丸藤：なぜ町会活動をやろうと思ったのですか？まだ若いのに（笑）

山田：二世帯住宅で家の前で焼き肉ができそうなところ（笑）を探してたら、陣川がいいとなりました。で、町会の総会に出席して色々話を聞いているうちに、「一緒にやらないか」と声を掛けてくださった方がとても良い方だったので参加することにしました。もうすぐ丸4年になります。

佐藤：私も同じころに入ったんです。ずっとPTAの会長をやっていたのですが、子どもたちのことを考えると学校の中だけでなく町会とか周りの人たちとの関りも必要だと思っていた時に、声を掛けていただきました。

丸藤：町会の活動って、忙しそうですね。

山田：大変だと思っている人は多いですよね。実際、一番メインの納涼祭が近くなると仕事3、町会7くらいになります。（笑）

佐藤：色々な行事が月に一回くらいはありますね。

山田：でも、大変だけど、やった成果を実感できるようになってきました。多くの方が手伝いにも来てくれます。

佐藤：納涼祭なんて、あの人数の多さっていうのは役員たちもみんな凄く驚いています。

山田：実行委員とステージに出演してもらう方のお昼のカレーライスだけで140食用意するんですよ（笑）。来場者も1000人規模です。

丸藤：役員さんはどんな方々ですか？

佐藤：上は70代から、若い人で38歳。幅広いですが、やはり60代70代の方が多いです。でも、そういう方々が心広く理解して下さっています。自分たちの住んでいる町だから地域や環境を良くしていきたい、という思いがみんなにあります。

丸藤：地域は変わってきましたか？

山田：一番感じているのは、回覧板がまわるのが早くなりました。前は1ヶ月以上かかってたのが、今は2週間あればまわります。地区長さんの陰ながらの努力もありますが、凄いことです。

佐藤：町会活動にみんなが興味を持ってくれているということですよね。

丸藤：フェイスブックやLINEも活用していますね。

山田：市内では、まだ私達だけかもしれません。知らないうちに多くの人にシェアしてもらっています。

丸藤：バスも走らせました。

山田：「地域にバスがないと困る」ということで動き始めました。

佐藤：最初は小学校に通う子どもたちのバスが必要ということでスタートしました。

山田：次に、町内の高齢者が買い物難民にならないように走らせられないかということになりました。

丸藤：実現するのは大変だったと思います。

山田：地域の足として必要なことは分かっても、実現に向けての活動はボランティアの領域を超えたことでした。

丸藤：これからの町会活動について思うことをお聞かせください。

山田：市とタッグを組んで町会が盛り上がって、小さい子どもたちから高齢者まで全部見ていける状況をつくってくことができれば良いなと思います。

佐藤：環境整備だとか介護や福祉、子どものためとか、もっともっと広げて住みよいまちにしていかなければいけないと思います。

山田：市には、観光地だけでなく地域の人が住んでいる所も大切にしてもらいたいですね。函館で生活している人のためになることが大事だと思うんですよ。

佐藤：住みよいまちをつくるのが、市や私達の役割ですからね。

終